

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

(セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。)

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	みどり合同会議、1F会議、2F会議、カンファレンスや申し送りを通して、法人の理念やGH運営の基本方針を確認し、サービス提供を実施している日々の記録(iPad)・会議記録として残し、重要事項を全職員で共有し実践につなげている。	理念及び基本方針については、1Fと2Fのスタッフルームの壁に掲げられている。またパンフレットやホームページに掲載されて職員は、職員会議等で確認・共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域においては消防避難訓練を実施。月1回で音楽療法講師を招きデイサービス合同で実施・活動している。※9月長野大学の学生ボランティアを招き、吹奏楽を演奏を実施。また施設に地域を招待し「獅子舞」を披露予定(3月予定)	本年度は、地域の消防団も来ていただき、防災訓練を実施しました。また講師を招聘して、月1回の音楽療法を実施している繋がりが、長野大学の学生ボランティアの訪問による吹奏楽の演奏が実現しています。今春は、地域の皆様による「獅子舞」を計画していると聞き取りました。散歩の際、近隣の方と利用者が自然と挨拶を交わすような場面もあるとの事である。この様に、コロナ禍でほとんど地域との交流が途絶えていたものが、事業所の取り組みにより、少しずつとりもどされてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	区の自治会長・民生委員・消防部長などに運営に関して会議・資料交換を行い、現状報告・問題などを提起してお互い意見交換をし、地域貢献を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	協力関係を築くように取り組んでいる。申請書郵送のみ行うのではなく、窓口に行き、挨拶・現状報告等、相互にコミュニケーションを図っている。行政主催の集まりにも参加して連携を図っている。ご利用者様の入居希望相談など、相互に情報を共有し、より良い関係性を築いている。	運営推進会議は、2ヵ月に1回開催されて利用者の状況や事業所の状況等について報告や話し合いがされています。昨年度までは、コロナ禍のため、書類による開催でした。本年度は、対面開催を6月に実施しましたが、その後、地域の感染症状況の悪化により書面による開催を余儀なくされた。	運営推進会議は、コロナ禍で対面開催が難しい状況にありましたが、災害時等は地域の力が不可欠です。今後は感染症の状況等を踏まえて、地域との繋がりを構築するためにも、オンラインの活用等工夫をする事で対面の開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	協力関係を築くように取り組んでいる。申請書郵送に頼らず、上田市役所窓口に行き、コミュニケーションを図っている。行政主催の集まりにも参加して連携を図っている。担当者とは相談窓口を通じ、関係性を築けている。	申請書類等は、できる限り郵送でなく、窓口に参加して、担当者とのコミュニケーションをとる様にしています。来月にメークセラピーを計画していますが、その講師を紹介してもらう等日頃より相談や助言等をいただく関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヵ月に1度、法人として全体研修があり、担当スタッフが出席している。研修内容を施設内で周知している。各スタッフは身体拘束についての理解ができており、身体拘束をしないケアを行っている。事業所会議では身体拘束マニュアルを常時、確認し、全職員認識できるよう行っている。	開所以降、身体拘束の実施は無いが、法人として身体拘束のマニュアルに基づき“身体拘束・虐待防止委員会”を開催し協議している。また定期的な研修を実施して、全職員が認識を持てるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	2か月に1度、法人として全体研修があり、担当スタッフ出席している。研修内容を施設内で周知している。各スタッフが虐待の防止についての理解ができており、虐待の防止を徹底している。事業所会議では虐待防止マニュアルを常時、確認し、全職員認識できるよう行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	この地域は社協が窓口になっており、独居のご年配の方が将来財産上の問題が浮上、予想される場合には相談をしており、また本人が希望した場合などは司法書士などに関わって頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、理解・納得を得ている。入所時・解約時・改定時などには十分な説明を行っている。特に金銭的なことについては(介護保険料金改訂など)、トラブルを回避するため、利用者家族から承諾書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常時、日頃意見を言えるように、玄関に意見箱を設置して、面会・電話での要望に常時進言できる体制を築いている。9月に全ご利用者ご家族様へ施設内見学を実施し意見交換を行う予定だったが、感染が流行してしまい、延期。来年度、4～5月に実施予定。	本年度は、家族会を兼ねて施設見学を計画していたが、感染症の流行により中止せざるを得なかった。来年度に再度実施する予定と聞き取った。玄関に意見箱を設置している。日頃より面会時や電話等において、家族からの意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	反映させている。月1回の合同ミーティング・各グループホームのミーティングにおいて、職員の意見・要望を聞く機会を設けている。	グループホーム内や合同ミーティング会において、職員の意見を聞き運営に反映している。殊に今後の行事企画等、積極的に意見を出してくれている。管理者は、自発的に意見をあまり言わない職員に対しても、聞き上手になり意見を引き出すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の評価表を実施しており、給与・賞与に反映し、労働条件については職場環境・個人の休暇の希望を取り入れ職員の要望に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員を育てる取り組みをしている。法人内で2か月に1回の各研修会を設けている。また介護技術向上のための研修会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	行政主催の集まりなどに参加したり、職種に応じた研修会や勉強会に参加して、サービスの質向上を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	家族・本人から可能な限り、今までの生活や、育ってきた環境などについてお聞きし、要望に沿うよう介護計画やケアに活かしている。施設で楽しく、穏やかに生活できるように交流機会を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所する前にご家族からの要望などお聞きしている。また、入所後も定期的に連絡を取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時にご本人及びご家族からの要望などお聞きし、介護計画の作成やサービス提供に努めている。また、他の方法もあることなども含め提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者本人のADLに応じて、お茶配り・配膳・食器拭き・洗濯物たたみ・掃除など一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や電話などでご本人の状況などお話し近況をご報告している。また外出・外泊の機会を確保している。 (新型コロナウイルス流行防止の為、慎重に行っている) 月1度に写真付きの近況報告書を送り、御家族様が安心していただけるよう提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近所の方が見えたり、家族の面会など、常時対応している。面会規制はしていない。 (ご利用者様の様子・状況を確認の上、実施)	コロナ禍においては、家族も面会が制限されていたが、本年度は利用者や家族の同意が得られた方について、特に面会の制限が無く、近所の方や友人が面会に来所されている。調査日においても友人3名が面会に来所されていた。	2階の利用者については、1階のソファや面談室において面会を実施しているが、開所がコロナ禍であったこともあり、居室の様子や生活の様子がわからないので、2階で面会をさせて欲しいとの希望もあります。今後は、2階での面会を検討する事を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや行事では、それぞれの方ができる事を提案して実施している。利用者同士の交流では職員が仲介したり、声掛けをして間に入り支援している。またボランティアが来所される際には、全員が参加できるように声掛けしている。 (音楽療法・長野大学の学生ボランティア・地域交流等)		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	逝去・同法人内の施設に移られても、相談を受けたり、経過を見守っている。また、ご自宅に戻られても関係機関やご家族、ご本人と連絡調整など行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時に御家族様・御本人の希望をお聞きして記録表に記入している。また、好きなこと・嫌いなこと、また趣味なども把握して、一人一人の暮らしの中での経験を日々の生活の中に活かすよう取り組んでいる。(スタッフ間でひもときシートを取り入れ、課題解消できるよう実施)	ご本人の思いが伝えられない利用者については、24時間シートやひもときシートから生活歴や意向・趣味を把握して、ケアに反映している。来月、メークセラピーの実施を計画しているが、利用者の中に自宅で生活していた時は、毎日お化粧をしていた利用者があり、生活の継続性からこの企画が出てきたとの事。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方などについては入所時に聞き取りを行っている。 (スタッフ間でひもときシートを取り入れ、共有できるよう実施)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの状況について、業務日誌・日課記録表により現状把握を行っている。 (スタッフ間でひもときシートを取り入れ、共有できるよう実施)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の希望などをお聞きしてプランに反映している。必要な関係機関とも話し合い意見をお聞きしている。また、GH会議などでも検討して、反映している。 (スタッフ間でひもときシートを取り入れ、介護計画・モニタリング・アセスメントを実施)	計画作成担当者を中心に、ひもときシートや24時間シートをもとに職員会議においてアセスメントを行い、計画作成担当者の立案を職員会議で確認して面会時に家族へ説明同意を得ている。面会に来られない家族には電話で説明を行い、実施して職員会議で評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌や個人経過記録に記入している。 (iPad) また職員員の申し送りノートで情報の共有を図っているし、必要があれば介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族や利用者様の相談に応じ、要望や要求に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域とのかかわりを大切に、学生ボランティア・地域を招待し、安全豊かな暮らしを楽しめるよう支援を実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医は法人内の診療所が行っており、容易に診てもらえることができる。定期以外の臨時の受診は家族に様態・状況を説明して納得を得られている。受診表を提出して、即対応されている。他医院の受診もある。	主治医は、法人内の診療所医師が行っているため、定期的に月1回の往診を受けている。随時の受診も速やかに受ける体制が整備されて、検査の必要な時や入院が必要な場合も病院との連携がスムーズに取れる。また歯科受診に関しては、2週間に1回往診による定期診察を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医師・施設看護師・法人内の訪問看護、病棟看護師、ハーモニック東部看護師と連携を図り、常日頃相談して、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院した際にはサマリーにて、こちらの情報を提供して、入院中においては、ムンテラなどに参加させてもらい、常に情報を共有できるように努めている。そして早期に退院できるように相談もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に急変した場合、重度化した場合、この施設で可能な医療・介護などの内容について、十分説明をし、理解を得ている。他院に移る場合などは家族・本人に希望を聞き、家族が選んでいただくようにしている。	入所時に急変した場合や重度化した場合の意向を契約書により確認している。状況の変化があった場合は、十分説明して再度確認している。当該ホームでの終末期を過ごす事を希望される場合は、受け入れる体制は、あるが今まで、入院対応される方がほとんどであった。医療法人が設置主体であるため、家族から安心である旨の意見があり、当該ホームの強みと言える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	実践力を身につけている。 法人全体での研修会などで訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	協力体制を築いている。 スプリンクラー、火災通報装置が設置されており、防災訓練も年2回実施している。(なるべく全職員参加) 区の役員や消防団も参加している。	本年度は、10月に地域の消防団や自治会役員と合同で防災訓練を実施、2月に2回目を実施しているが夜間訓練や地震、土砂災害想定での実施は確認できなかった。BCPは法人で作成している。当該ホームの建設地は土砂災害警戒区域外のため、避難確保計画は作成されていないが隣接地は区域内になっている。	今後の防災訓練について、夜間若しくは、夜間想定で1回実施される事を期待します。また地震や土砂災害、BCP想定での防災訓練を実施される事を期待します。ことに土砂災害は、隣接地が土砂災害警戒区域のため火災の避難ルートとは異なり、訓練の実施と職員への周知を期待します。

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけには細心の注意を払っており、また、入浴時や排泄時には露出部分が極力少ないように配慮している。 入浴は必ずご利用者様一人のみ対応。	否定する言葉は使わない等、言葉かけには、細心の注意を払っている。また認知症の実践研修の資料等を使用し研修も実施している。できる限り入浴や排せつ介助については、同性介助を行っている。またトイレの扉は、開いていたらずぐ閉める等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員サイドで決めるのではなく、できるだけ本人が決定できるように、選択肢ができるような質問をするなど心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や食事時間などその人のペースに合わせて過ごしていただくよう支援している。実際に遅い食事時間の方や早い食事時間の方もおられ希望に添って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族から衣類をお預かりし、週2回の入浴後本人と相談して衣類を選んでいる。2か月に1度美容師が訪問して利用者の要望に応えている。その方によっては、地域の理髪店に行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様の状態に適した食形態を提案している。(ミキサー・刻み食等) またそれぞれの能力に応じて役割分担している。 ご利用者様の希望に添って、食事準備や食器拭き、簡単な調理などをやっている。	献立については、湯せん食を使用しているが、ユニット内でご飯と味噌汁は、作っている。行事食は、誕生会等利用者の希望を聞いている。また食器拭きや配下膳、手すりの消毒等は、利用者と一緒にやっている。敷地内の畑で収穫したミニトマト等を付け合わせにしたりおやつで提供して、食への楽しみを誘う取り組みも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量については毎回記録している。脱水にならないように気を付けている。 また、法人の管理栄養士との連携がとれている。現在、食事はクックチル対応である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っており、就寝の際には義歯の洗浄を行っている 法人内の歯科衛生士に1～2週間に往診に来ていただいている。(口腔ケア・義歯調整など)		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	常に排泄チェック表をつけており、ご利用者様一人一人にあった排泄方法に努めている。できる限り、トイレで排泄できるように行っている。 立ち上がり不安定な方は職員協力し、安全第一にトイレ介助を行っている。足腰の筋力が低下しないよう配慮している。	排せつに関して、一人一人タブレットに入力管理して、排尿のパターン等の分析を実施している。その他夜勤帯については、別に記録を取っている。トイレ誘導を行いできる限り、トイレでの排せつを進め、18人中12人がトイレにて排せつを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の周期のチェックをし、水分摂取を促したり、運動を進めたり、便秘にならないようにしている。便秘傾向の人には主治医に薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々に沿った支援をしている。現在曜日での入浴になっているが、入りたくない方は時間帯をずらしたり別の日に入って頂くよう対応してしている。 なるべくご利用者様の希望に添った日常を送って頂いている。	1階にチェアー浴と個浴があり、2階は個浴が設置されて、一人一人の状況に応じた入浴が行われている。1日3人ずつの入浴を実施しているが断られる場合は、別の日や時間を変えて誘って、週2回の入浴を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者それぞれの生活パターンを全職員は理解できており、休みたい時などは、自室に誘導したりホールソファ等で休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者様が服用されている薬については、薬情を称津診療所からいただいております。職員は把握している。服薬に関しては職員が管理して、飲むまでの確認は常に行っている。状態変化時は主治医に相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入所時やその後のカンファレンスや日々のお話の中で合った役割、趣味嗜好を把握している。その方の能力に合った役割分担をしており、本人の希望に沿って献立を変更したり、戸外活動を行ったり、好きなことをして頂いて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望によって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日頃、外を散歩したり行事を通じ、お花見・道の駅散策、リフレッシュできるよう計画を立てて行っている。 また一時的に自宅に帰ったりと御家族様の希望に添えられるよう努めている。 3月～4月に地区の行事(獅子舞)に見学予定。	コロナ禍で以前は、外出ができなかったが、本年度は、散歩やお花見、道の駅等感染の状況や天候を考慮して外出支援を行っている。またご家族と法事に自宅へ外出をされたり、外食を楽しんでいただくこともある。来年度も天候等の状況を見ながら外出の計画を立てて行きたいと聞き取る。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	それぞれの利用者の状況に応じ、家族との話し合いでわずかな金額を預かって、本人の希望・要望に沿って対応している。また、本人自身が所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様が家族や知人などに連絡したい時は電話にて対応している。 また御家族様に感謝の手紙を書いたりと繋がりを大切に行っている。(希望される方々)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日頃から施設内していると、季節感に疎くなってしまう傾向がある為、月ごとのカレンダー作りや季節に応じての外出を行っている。 ※春～夏にかけ、花・野菜を栽培し、収穫している。毎日ラジオ体操を行い、廊下を歩行訓練の場として行ったりして居心地良く生活できるように工夫している。	ホール内に椅子をおいている。仲の良い利用者同士がその椅子に腰かけて談笑したり、トイレの帰りに途中の椅子でくつろいだりする姿が見られる。廊下を歩行訓練と言って歩かされている利用者もある。また雛飾りや壁面飾りを工夫して季節感を感じられる工夫も行っている。居室の入口ドアのガラスは、夜間まぶしいと言われる利用者には、黒紙を貼る等の対応も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール・居室では気の合った者同士でテレビを見たり、みんなでゲームをしたり、また、一人で新聞を読んだり、思い思いに過ごしていただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで生活されてきた背景を考慮して、馴染みの物をお持ちいただくようにしており、人によっては遺影や仏壇を居室に持参されている。本人の希望に添えるようにしている。	入所時家族には、できる限り馴染みの物を持ち込んでいただくようお願いをしている。テレビの持ち込みだけでなく、小さな仏壇に位牌を持ち込んでいる利用者もあり、「お線香はあげられないけど毎日手をあわせている。」と話してくれた利用者もあり、本人の満足感が得られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫している。 利用者各々がこの施設での生活が安易に安心して暮らせるように、廊下には障害になるものは置かないようにして安全性を確保している。また、居室やトイレの場所などが分からない方のために案内板を設置して、一人で行動できるようにしている。		